

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

平成28年9月28日(水) 5校時

場所 佐世小学校図書館

授業者 担任 司書教諭 学校司書

1. 単元名 平和への思いを伝えよう！

2. 単元の概要

(1) 単元のねらい

○戦争について調べ、平和の大切さに気付くとともに、平和への思いを伝え合う活動を通して、平和な世の中をつくっていかうとする態度を育てる。

(2) 単元で育てたい力

【問題解決の力】

○平和について興味・関心をもち、適切な課題を設定する。

○積極的に平和についての情報を収集したり、整理したりする。

【自己表現力】

○平和について調べた事をもとに、自分の生き方と関連づけて考える。

【コミュニケーション能力】

○平和に対する自分の考えを相手に分かりやすく伝える。

(3) 単元で学ぶ内容

①戦争や原子爆弾について知る。

②平和についての課題を設定し、追究する。

③調べた事をもとに、自分の平和に対する考えを、立体リーフレットにまとめる。

④平和についての自分の考えを発表し、友だちと意見を交流する。

(4) 本単元で身につけさせたい情報活用能力

○様々な思考ツールを使って、課題と学習計画をたてる。

○図書資料やインターネットから必要な情報を見つけ出し、情報カードにまとめる。

○集めた情報を、情報カードを活用して比較・分析・整理する。

○選択した情報を活用し、工夫して立体リーフレットにまとめる。

(5) 単元設定について

① 児童について

(省略)

② 教材について

戦後70年あまりが過ぎ、平和であることが当たり前のようになっている今日であ

る。私たち自身が戦争経験のない世代であり、祖父母もその世代になりつつある。

このような状況の中、戦争や原子爆弾を過去の物とせず、学習し後世に語り継いでいくことが大切なことであると考えます。過去の戦争から学び、戦争の悲惨さや恐ろしさを感じるとともに、平和の大切さについて考えることは重要なことである。また、平和を維持するためには、多くの人々の努力が必要であることや、今、なお、紛争や争いが世界各地で起こっていることを学び、自分たちに何ができるのか考えることは、今後の平和な世界を構築する上で不可欠である。

③ 指導について

第一次では、子どもたちが平和学習への見通しをもつことができるように、大まかな学習の流れを示す。そして、平和に関する図書の紹介をし並行読書に取り組むことにより、学習全体における意欲づけを図るとともに、戦争についての知識を増やしていきたい。並行読書では、キーワードや思ったことなどをメモするようにし、課題設定のヒントにする。なお、充実した並行読書になるように、学校司書によるブックトークを行う。

第二次では、戦争や原子爆弾、佐々木禎子さんについての学習を行い、日本がいつどのような戦争を行ったのか、原子爆弾の被害や影響はどのようなであったのかなどを知ることを通して、平和について考える素地を作っていきたい。また、修学旅行では、原爆資料館の見学や語り部さんのお話から、本物にふれ、見聞を広めるようにする。

第三次では、これまで学習してきたことを振り返り、疑問に思ったことやもっと詳しく調べてみたいと思ったことなどから、それぞれの課題を設定するようにする。調べ学習を進める中で、その課題にしたことに対する自分の思いが深まっていくように支え、意欲的な学びがつながるようにしたい。また、それぞれの学びを立体リーフレットにまとめ、平和に対する自分の思いを保護者に発表することを伝え、学習への意欲づけを図りたい。

第三次の1時では、ウェブ図を活用し、課題設定に向けたイメージを広げる。ここでは、戦争について思いつく言葉を書き出すようにする。その中で、最も気になった言葉をキーワードとして選び、なぜ、そのキーワードを選んだのか、自分の思いを書くようにする。この思いを、これからの調べ学習の原点としたい。

本時では、くま手図を活用し、自分のキーワードから、疑問の形で問いを記入していくようにする。司書教諭と連携しながら、継続して調べられること、調べる内容がはっきりしていることなどの視点を示し、適切な課題を設定できるように支援していく。くま手図が書けない児童については、学校司書と連携し、図書資料を参考に考えるように促し、課題設定につなげたい。そして、くま手図に書き上げた疑問の文章の中から、自分の思いに沿った、適切な課題を選定するようにする。

設定した課題を追究していく際、適切な図書資料の準備や情報カードの活用の仕方などについて、司書教諭や学校司書と連携しながら指導にあたる。児童が見通しをもって学習を進めることができるように、学習の流れを掲示したり、学校司書による図書資料の活用についての説明を取り入れたりする。また、情報カードの書き方についても確認し、スムーズに調べ学習に取り組めるようにしたい。

第四次では、調べた事を立体リーフレットにまとめ、平和に対する自分の思いを発表するようにし、意見交流を行い、平和に対するそれぞれの考えを深めていきたい。

3. 単元の評価規準

問題解決の力	自己表現力	コミュニケーション能力
○平和について関心をもち、適切な学習課題を設定している。 ○課題解決に向け、必要な情報を集め、比較・検討・整理している。	○収集した情報をもとに平和についての自分の思いを生活と関連づけて表現している。	○平和について調べた内容や自分の思いを分かりやすく伝えている。

4. 指導と評価の計画（全36時間）

学習過程 (時間数)	学習活動	評価規準	学校図書館 の活用	他教科等 との関連
第1次 オリエンテーション(2)	○平和学習への見通しをもつ。 ○ブックトークを聞き、並行読書を行う。	・学習の見通しをもち、意欲的に読書に取り組んでいる。	○選書・ブックトーク 学校司書	
第2次 戦争や原子爆弾について調べる。 (15)	○日本の過去の戦争や現在の紛争について調べる。 ○永井博士の功績や平和への思いや願いについて調べる。 ○平和についての自分の考えを作文に表現する。 ○佐々木禎子さんの生涯について調べる。 ○広島原爆による被害・影響について調べる。 ○広島原爆資料館を見学したり、語り部さんから原爆の話を知ったりする。	・平和についての情報を収集したり、整理したりしている。 ・平和に対する自分の考えを適切な表現を使って作文に表現している。 ・過去の戦争をよく知る人の話を積極的に聞いている。	並行読書	・社会科「長く続いた戦争」 ・永井隆平和記念式典 ・修学旅行
第3次 平和への思いを伝えるために、自分の課題を設定し、追究する。 (12) (本時2/12)	○自分の追究したい課題を設定する。 ○設定した課題について、図書資料から必要な情報を見つけ出し、情報カードにまとめる。 ○集めた情報を、比較・分析・整理する。	・自分の思いに沿った、適切な課題を設定している。 ・調べる方法を考え、計画を立てている。 ・情報を収集し、比較・分析・整理している。	○思考ツールを使った課題設定 情報カードの使い方 司書教諭 ○選書のポイント 学校司書	
第4次 調べた事をまとめ、平和に対する自分の考えを発表する。(7)	○比較・分析・整理した情報を活用し、工夫して立体リーフレットにまとめる。 ○お互いに発表しあい、意見交流をする。(保護者に向けて発表)	・工夫してわかりやすくまとめ、立体リーフレットに表現している。 ・お互いの考えを尊重しながら発表を聞き、意見交流をしている。	○立体リーフレットの作成	

5. 本時の活動（第3次 2/12）

(1)ねらい

- ・ 平和への自分の思いを大切にし、課題を設定することができる。

(2)展開

時間	学習活動	教師の支援（☆）と評価（◎）
0分	1. 本時のめあてと学習方法を確認する。	☆本時のめあてを提示し、学習の見通しをもたせる。
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の思いにピシッといい具合な、課題を設定しよう。 </div> 2. 自分の思いを大切にしたい課題を設定する。 ①キーワードは戦争中の暮らしにしたけど、疑問の文章がキーワードや思いとずれる・・・。 ②キーワードを戦争中の暮らし、課題をどんなことが大変だったかにしたけど・・・。 ③キーワードは永井博士にしたけど、どんな課題にしていいかわからない・・・。	☆前時に作成した「ウェブ図」をもとに、課題を設定することを伝える。 ☆「くま手図」を使った課題の設定の仕方について説明する。（司書教諭） ①自分の思いからそれている場合は、ウェブ図に書いた自分の思いをもう一度確認するように助言する。 ②課題の範囲が広すぎる場合は、問い返して具体的な課題を見つけられるようにする。（担任、司書教諭） ③くま手図が書けない場合には、図書資料の目次などが参考となるようにヒントコーナーをもうける。（学校司書） ◎自分の思いに沿った、適切な課題を設定している。
30分	3. 設定した課題を紹介する。 ・ 設定した課題を提示し、自分の思いを発表する。	☆設定した課題は実物投影機で提示する。
40分	4. 振り返りをする。 ・ 本時の学習を振り返り、感想を交流する。	・ 感想を交流し、次時の調べ学習への意欲づけを図る。

(3)本時の評価

十分満足とされる児童の姿	おおむね満足とされる児童の姿	支援を要する児童への具体的な支援
・自分の思いに沿った、適切な課題を設定し、友だちの課題設定の良さにも気づき発言している。	・自分の思いに沿った、適切な課題を設定している。	①自分の思いからそれている場合は、ウェブ図に書いた自分の思いをもう一度確認するように助言する。 ②課題の範囲が広すぎる場合は、問い返して具体的な課題を見つけられるようにする。(担任、司書教諭) ③くま手図が書けない場合には、図書資料の目次などが参考となるようにヒントコーナーをつくる。(学校司書)

(4)研究の視点

- ・思考ツールを使って課題設定をしたことは、児童が自分の思いを課題につなげ、主体的な学びに向かうために有効であったか。(ア：課題設定の工夫)